

行政視察 谷美枝子 議員

日時: 令和7年11月10日(月)～11月12日(水)

場所: 福岡県久留米市、長崎県佐世保市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～石岡駅	鉄道	往復	191.2	3,380				3,380
石岡駅前～茨城空港	バス	往復	29.4				1,360	1,360
茨城空港～福岡空港	飛行機	往復	2,292.0			29,020		29,020
福岡空港(鉄道)～西鉄久留米	鉄道	往	44.4	900				900
西鉄久留米～市役所前	バス	往	1.7				210	210
西鉄久留米～甘木	鉄道	往	20.0	420				420
甘木～佐世保	鉄道	往	116.4	2,560				2,560
松浦町中央公園口～京町	バス	往	0.8				200	200
佐世保～福岡空港(鉄道)	鉄道	復	120.3	2,680	2,330			5,010
計				9,940	2,330	29,020	1,770	43,060

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	43,060 円
(うち航空運賃)	29,020 円
計	76,060 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

行政視察報告書

1 期日 令和7年11月10日（月）

2 視察地及び視察事項

（1）福岡県久留米市

「環境部庁舎の ZEB 化改修について」

久留米市視察概要

（1）福岡県久留米市

久留米市の概要

- ・人口 299,357 人
- ・世帯数 144,551 世帯
- ・面積 229.96 km²

視察概要 「環境部庁舎の ZEB 化改修について」

○目的

既存公共施設の老朽化や脱炭素社会の実現に向けた課題を背景に、環境負荷の低減とエネルギーコスト削減を両立する手法として注目されている ZEB 化について、既存施設改修による実現事例を調査研究する。

○内容

久留米市では、環境部庁舎において ZEB 化改修を実施し、既存建物を活用しながら省エネルギー性能の大幅な向上を図っている。

本事業の背景には、施設の老朽化や空調設備の更新の必要性に加え、2030 年までに CO₂排出量を 40%削減する目標があり、これらを同時に解決する手法として ZEB 化が検討された。

改修内容としては、外皮断熱の強化、高効率空調設備の導入、LED 照明への更新、全熱交換換気の導入に加え、太陽光発電設備および蓄電池の設置、BEMS によるエネルギー管理など、多角的な取組が実施されている。

特に、窓の断熱性能向上においては、既存のサッシ枠や障子を活用し、ガラスのみを交換する手法を採用することで、コストを抑えながら高い断熱効果を実現している。また、施設を使用しながら改修工事を実施できた点も大きな特徴である。

その結果、エネルギー消費量は従来比で約 70%削減されるなど、大きな省エネ効果が確認されている。

なお、改修費用は約 2 億 500 万円であるが、国の補助制度を活用することで実質的な負担軽減が図られており、投資回収年数は約 6.7 年と試算されている。

さらに、本事業は関係部署による有志の ZEB チームを組織し、事例調査や検討を重ねながら進められたものであり、組織横断的な取組が成功の要因となっている。

○所感

今回の視察において特に印象的であったのは、関係部署の有志による ZEB チームを立ち上げ、課題に対して地道に調査・研究を重ねながら事業を進めていた点です。

また、既存のサッシ枠や障子を活用しガラスのみを交換することで断熱性能を大幅に向上させた点は、コストを抑えながら効果を最大化する工夫として非常に参考になりました。

さらに、施設を使用しながら改修工事を実施できた点についても、行政施設における現実的な改修手法として有効であり、佐野市においても十分に導入可能な取組であると感じました。

一方で、改修費用が約 2 億円規模と高額である点については、導入にあたっての大きなハードルであり、財源確保や優先順位の整理が課題になると感じました。

本事例は、既存施設を活用しながら脱炭素化とコスト削減を両立した先進的な取組であり、今後の佐野市における公共施設のあり方を検討する上で、大いに参考となるものであると感じました。

行政視察報告書

1 期日 令和7年11月11日（火）

2 視察地及び視察事項

（1）長崎県佐世保市

「中央公園リニューアル事業（Park-PFI の活用）について」

佐世保市視察概要

（1）長崎県佐世保市

佐世保市の概要

- ・人口 227,651 人
- ・世帯数 102,672 世帯
- ・面積 426.01 km²

視察概要 「中央公園リニューアル事業（Park-PFI の活用）について」

○目的

中心市街地における公園の老朽化や未利用施設の課題を背景に、民間活力を活用した公園整備手法である Park-PFI の導入により、にぎわいの創出と持続可能な管理運営を実現している先進事例について調査研究する。

○内容

佐世保市の中央公園は、施設の老朽化や未利用施設の存在などにより、公園としての魅力が低下していたことから、地区全体の土地利用の再編が課題となっていた。

このような中、同市では中央公園のリニューアルにあたり、Park-PFI と PFI を併用することで、民間のノウハウと資金を活用しながら、財政負担の平準化を図る手法を採用している。

整備内容としては、芝生広場やイベントスペースのほか、飲食施設やカフェ、コンビニエンスストア、屋内遊び場などの民間収益施設を導入し、公園を単なる憩いの場から「にぎわいの拠点」へと転換している。

また、屋外にはオートキャンプ場や屋外遊び場、デイキャンプ場など多様なアクティビティ機能が整備されており、日常利用から観光利用まで幅広いニーズに対応している。

さらに、カフェと多目的スペースを兼ね備えた施設では、キッチン設備を活用した料理教室の開催や、貸しスペースとしての利用も可能であり、地域交流や民間活用の拠点として機能している。

その結果、音楽イベント「JAM FES」では2日間で約15万人を動員するなど、大規模な集客を実現し、公園のにぎわい創出に大きく寄与している。

なお、公園の管理運営費については、18年間で約18億5,956万円とされており、民間活力を活用した持続可能な運営が図られている。

○所感

今回の視察において特に印象的であったのは、屋内遊び場をはじめとした子育て世代向け施設の充実であり、公園が単なる遊び場にとどまらず、幅広い世代が長時間滞在できる魅力的な空間となっている点です。

また、芝生広場において大規模な音楽イベントが開催され、2日間で約15万人を動員するなど、公園が地域のにぎわい創出の拠点として機能していることに大きな可能性を感じました。

さらに、オートキャンプ場やデイキャンプ場、屋外遊び場などの多様な施設に加え、キッチンを備えたカフェ・多目的スペースをレンタル利用できる仕組みは、民間活用と地域交流の両面において非常に魅力的であり、佐野市においてもぜひ導入を検討すべき取組であると感じました。

一方で、屋内遊び場の利用料金は、子ども 900 円（2 時間）、保護者 500 円と設定されており、施設の充実度を踏まえれば一定の妥当性はあるものの、他自治体の公共施設と比較するとやや高めの水準であると感じました。

継続的な利用や多子世帯への配慮の観点からは、誰もが気軽に利用できる料金設定のあり方について、今後検討の余地があると考えます。

本事例は、民間活力の導入により公園の価値を大きく向上させた先進的な取組であり、今後の佐野市における公園整備や中心市街地活性化の検討において、大いに参考となるものであると感じました。